

日本と南アフリカの小中学校連携を軸とする ESD モデルの構築・実践の試み

国際基督教大学

北原和夫

1. 目的

20 世紀に急速に発達した科学技術によって、生活の利便性は増したが、一方において産業の巨大化によって資源の枯渇、環境破壊などが深刻な問題が生じ、人類と地球の持続可能性について楽観を許さない状況が認識されるようになった。さらに交通通信手段の高速化、広域化によって、一地域の変動が直ちに世界全体に影響を与える時代となってきた。このような状況の中で、異なる自然と社会の状況において生活している子どもたちが、共通理解の基盤を持つことは重要である。本事業では、国際基督教大学とケープタウン大学(南ア)が協力して、双方の小中学校間の連携を軸とする ESD モデルを構築し、学校現場でのモデル実践を試み、教材や教授法などを成果物としてまとめ、公開して双方の国の ESD の発展に資することを目的としている。大事なことは、双方で開発した教育モジュールを紹介し伝達するというのではなく、開発自体を共同で行うことである。国連大学における ESDA との連携、日本学術会議の「科学技術の智」プロジェクトとも連携し、相乗効果を期待する。今後は中学校ならびに高等学校までを視野に入れる。

2. 活動

対象地域 ケープタウン(南アフリカ)と三鷹

主な活動として、企画運営会議(企画のメンバーからなり、全体の方針を決定する会議)、実行委員会(関係する小学校、中学校の教員、大学教員、事務局スタッフとしての学生、院生からなり、事業の実施のための検討を行う)、ワークショップ(教育モジュールを具体的に作成し実施するための研究会)、国際基督教大学・ケープタウン大学合同会議(大学としての研究成果を取りまとめるための会議)の開催。

南アチーム訪日(平成 21 年 7 月 12 日-7 月 18 日)、

南ア訪問(平成 21 年 8 月 16 日-8 月 23 日)

南アチーム訪日(平成 21 年 12 月 8 日-13 日)

公開成果報告会・告シンポジウム(平成 21 年 12 月 12 日、大沢台小学校)

ビデオ会議(平成 22 年 2 月 25 日、国際基督教大学)双方の児童の討論

3. 成果

(1) 期待する成果

「土」と「川」をテーマにして教育モジュールの共同開発と実践の可能性を示した。日本の「授業研究」、「チームティーチング」が、南アでは極めて新しい経験として受け入れられたことも大きな発見であった。

(2) 成果物

共同で開発した授業案、実践した映像記録を成果物として刊行する。

日本とアフリカの小中学校連携を軸とするESDモデルの構築・実践の試み 国際基督教大学

目的

初等・中等教育レベルのESDモジュール(カリキュラム構成、教材、教授法を含む)を日本と南アフリカの大学と小中学校が国際共同開発を行う。本年度は参加小学校においてそのモジュールを使って教員がチームで授業を実際に行い、その成果をシンポジウム等で公開する。またそれぞれのその授業に参加した児童がビデオ会議によって、学びを共有することを試みる。その成果を広く両国の初等教育およびESD関係者に伝えることを目指す。自然と社会の条件が異なる地域(日本とアフリカ)において、児童・生徒が持続的発展のために何ができるかという意識を共有することが、ESDの基本である。

活動

「川」と「土」をテーマに、双方で授業を実施しながら、共同の授業計画を練り上げた。21年7月に南アチームが訪日、学校を訪問、ワークショップを行い、8月には日本チームが南アに行き、南アの児童に対してチーム授業を実施した。その後の授業研究を通して、共同授業計画をさらに検討した。12月に南アチームが訪日、日本の児童に対してチーム授業を公開で実施、授業研究

を行い、ESDの国際共同開発の意義についてシンポジウムを開催した。さらに双方の児童によるビデオ会議を本年2月に実施予定である。



2009.12.12 公開授業
チャンネル「サイエンスニュース12月号」より



成果

共同開発が可能であり、ESD教育上有効であることを児童へのチームティーチングを実際に行って立証した。授業案等をまとめた報告書、ならびに、実際の授業の映像を編集したものは、成果としてESD関係者の利用に供する。

日本とアフリカの小学校連携を軸とする ESDモデルの構築・実践の試み

代表者：北原和夫
国際基督教大学

プロジェクトの背景

▶ なぜESDモデルの国際共同開発か

- 1:産業の巨大化による資源の枯渇、環境破壊、
影響のグローバル化、地球全体としての調和
- 2:先進国でも教育と生活の関連を重視：
「総合学習の時間」

異なる自然、社会の状況下に在る人々の相互理解の必要性
生活に根ざした教育の共有の可能性

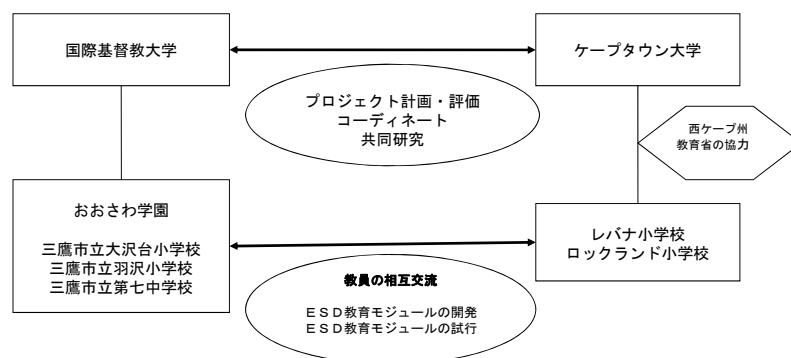
プロジェクトのねらい

- ▶ 日本と南アの双方の初等教育の教員がESDモデルを共同開発する。
[先進国のモデルを一方向的に伝達するのではない。]
- ▶ 教育の現場で共同で教育実践をする。
- ▶ 年次進行する。平成20年度 - 21年度は小学校、
今後は、中学校、高等学校に展開し、初等中等教育全体への波及を図る。
- ▶ 国連大学のESDA、日本学術会議の「科学技術の智」プロジェクトとの連携。



(日本)

(南アフリカ)



委員会：企画運営委員会、実行委員会、
ワークショップ、ICU-UCT合同会議



活動(平成21年5月-7月)

▶ **第一回実行委員会** (平成21年5月14日 大沢台小学校)

今年度の実行計画、南アからの授業案の検討を行った。

▶ **第一回ワークショップ** (平成21年5月14日 大沢台小学校)

プロジェクトの南アにおける進展状況の報告、南アからの提案に関する検討、南アに対する応答案の検討を行った。

▶ **第二回ワークショップ** (平成21年6月11日 羽沢小学校)

南ア側チームの授業案の検討、日本側の授業案

▶ **第二回実行委員会** (平成21年7月3日 大沢台小学校)

日本側の訪日スケジュール確認、
日本の南ア訪問のスケジュール確認



南アチーム訪日 (平成21年7月12日-7月18日)

▶ **第一回企画運営委員会**

(平成21年7月13日 国際基督教大学)

本年度の事業内容、南アチームの報告

▶ **第一回日本・南ア合同ワークショップ**

(平成21年7月16日 羽沢小学校)

双方の授業計画、教材の合意への検討

▶ **第二回日本・南ア合同ワークショップ**

(平成21年7月17日 国際基督教大学)

今後の作業日程の確認





日本チーム南ア訪問(平成21年8月16日-8月23日)

▶ 第四回日本・南ア合同ワークショップ (平成21年8月18日 Rockland小学校)

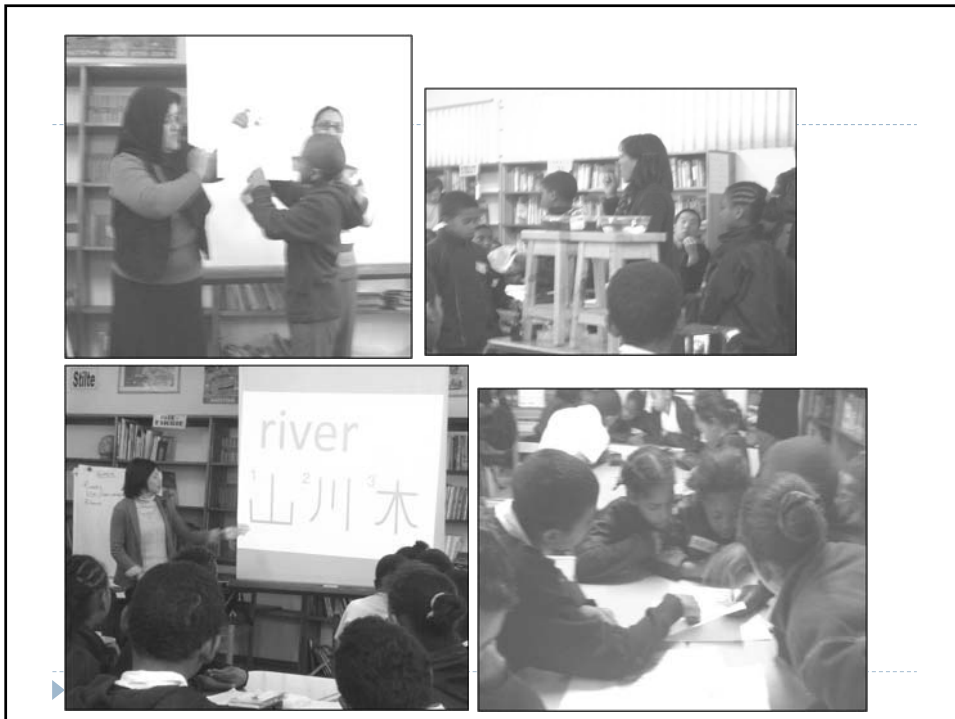
共同合同授業の振り返り

▶ 第五回日本・南ア合同ワークショップ (平成21年8月20日 Levana小学校)

共同授業の振り返り

▶ 第一回国際基督教大学・ケープタウン大学合同研究会 (平成21年8月21日 Rondebosch Manorホテル)

大学としての研究成果に向けた討論



活動（平成21年9月－12月）

- ▶ **第三回実行委員会**（平成21年9月8日 羽沢小学校）
南ア訪問の報告
- ▶ **第三回ワークショップ**（平成21年10月8日 大沢台小学校）
12月の共同授業に向けた準備
- ▶ **第四回実行委員会**（平成21年10月21日日 大沢台小学校）
南アチーム訪日に向けた準備
- ▶ **第四回ワークショップ**（平成21年11月12日日 大沢台小学校）
12月の共同授業に向けた準備
- ▶ **第五回実行委員会**（平成21年12月4日 大沢台小学校）
報告会・シンポジウムの準備

南アチーム訪日（平成21年12月8日－13日）

- ▶ **第六回日本・南ア合同ワークショップ**
（平成21年12月9日日 大沢台小学校）
共同授業に向けた調整
- ▶ **第二回企画運営委員会**
（平成21年12月10日 国際基督教大学）
全体の企画の進捗状況の確認
- ▶ **第二回国際基督教大学・ケープタウン大学合同研究会議**
（平成21年12月10日 国際基督教大学）
- ▶ **大学としての研究成果に向けた討論**
- ▶ **成果報告シンポジウム**
（平成21年12月12日 大沢台小学校）

平成 21 年度「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業
 「日本と南アフリカの小中学校連携を軸とする ESD モデルの構築実践の試み」
ESD 研究発表会
 日時：平成 21 年 12 月 12 日 (土)
 13:30～17:00
 会場：おおさわ学園三鷹市立大沢台小学校 (体育館)

国際基督教大学は、平成 20 年度から 3 年計画で、南アフリカ共和国のケープタウン大学と協力して、両国の小中学校教員による「持続可能な開発教育 (ESD)」モジュールの開発実践を進めています。文部科学省の「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業の一環として実施されたこのプロジェクトには、南アフリカ側からケープタウン市のレバナム学校とロックランド市立学校、日本側から三鷹市のおおさわ学園 (三鷹市立大沢台小学校、南アフリカ) が協力校として参加しています。ESD モジュールの開発は、両国教員の訪問交流によるお互いの ESD の取組みに関する共通理解の形成から始め、「取組上」をテーマとする共同実践研究の実施を通じて進められました。

この研究発表会の趣旨は、南アフリカ側チームの参加を得て、共同開発した小学校 5 年生対象の ESD 学習授業案を国際チーム・フォーラムにより公開授業形式で紹介する点と、グローバルな視点から見た ESD モジュールの国際共同開発プロジェクトの成果と課題についてプロジェクト関係者のパネル討論を通して明らかにすることにあります。

主催 文部科学省 国際基督教大学
 協力 おおさわ学園 (三鷹市立第七中学校 三鷹市立大沢台小学校 三鷹市立羽沢小学校)
 後援 南アフリカ大使館 三鷹市教育委員会

ESD 研究発表会 プログラム

13:00	13:30	14:15	14:30	16:55	17:00
受付	研究授業	移動	公開シンポジウム	閉会	謝辞

13:30-14:15 研究授業：5 年『自然のためにできること』
 授業 宮川 祐子教諭 (三鷹市立大沢台小学校)
 クロードット・デ・アンジェロ教諭 (ケープタウン市レバナム小学校)

【公開シンポジウム (日英同時通訳)】
 総合司会：伊藤雄一郎 (三鷹市立第七中学校、副校長)
 14:30-14:45 開会挨拶 日比谷潤子 (国際基督教大学、副学長)
 主催者挨拶 堀井淳哉 (文部科学省、国際協力課長)
 来賓挨拶 セシル・マソカ (南アフリカ共和国大使館、科学技術担当公使)
 14:45-14:55 プロジェクト紹介ビデオ上映
 15:00-15:10 研究発表・協議 高尾真文 (国際基督教大学、客員教授)
 発表 宮川祐子 (三鷹市立大沢台小学校、教諭)
 クロードット・デ・アンジェロ (ケープタウン市レバナム小学校、教諭)
 コメント 石川淳一 (三鷹市立第七中学校、教諭)
 川畑裕代 (三鷹市立羽沢小学校、教諭)
 上原義人 (三鷹市立羽沢小学校、教諭)
 15:55-16:55 パネル討論「ESD モジュールの国際共同開発の意義と課題」
 モデレーター 北原和夫 (国際基督教大学、教授)
 パネリスト アンデルス・ピーターセン (ケープタウン大学、研究員)
 堀井淳哉 (文部科学省、国際協力課長)
 長子剛成 (三鷹市、教育長)
 川畑周二 (三鷹市立大沢台小学校、校長)
 佐藤豊 (国際基督教大学、教授)
 16:55-17:00 謝辞 狩野達子 (おおさわ学園、学園長)

FY2009 MEXT International Cooperation Initiative Project
 Education for Sustainable Development in Primary and Secondary Schools:
 A South Africa-Japan Collaboration to Develop a Learning Module for Classroom Application
Open Symposium ESD Module Development
 Date: December 12, 2009 (Saturday)
 13:30～17:00
 Venue: Mitaka Municipal Osawadai Primary School

ESD stands for Education for Sustainable Development

Since 2008 International Christian University and the University of Cape Town have jointly supported ESD module development by primary and secondary school teachers in Japan and South Africa. Participating in this project, conducted as part of the MEXT's International Cooperation Initiative, are Levana Primary and Rockland Primary in Cape Town and Osawa Gakuen in Mitaka. The module development work started with shaping of common understanding about ESD through exchange of visits by teachers and evolved through joint lesson study on the theme of water and soil.

The main aim of the present symposium is to present the jointly developed ESD lesson plan for 5th graders by international team teaching using the format of open lesson study session, and subsequently to host a panel discussion of the key project participants on the results and remaining challenges for ESD module development conducted with a global perspective and pursued through an international joint effort.

Organized by: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
 International Christian University (ICU)
 Partner support by: Osawa Gakuen (Mitaka Municipal Dai-Nana Middle School, Osawadai Primary School, Haneawa Primary School)
 Supported by: South African Embassy, Mitaka Municipal Board of Education

Organized by: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
 International Christian University (ICU)
 Partner support by: Osawa Gakuen (Mitaka Municipal Dai-Nana Middle School, Osawadai Primary School, Haneawa Primary School)
 Supported by: South African Embassy, Mitaka Municipal Board of Education

Program

13:00	13:30	14:15	14:30	16:55	17:00
Registration	Lesson Study	Break	Open Symposium	Closure remarks	

13:30-14:15 Lesson Study / Grades 5
 "What we can do to protect nature"
 Teachers: Yuko Miyagawa (Osawadai Primary School)
 Claudette De Angelo (Levana Primary School)

【Open Symposium】
 14:30-14:45 Opening
 Junko Mihaya (Vice President, ICU)
 Atsumi Iwai (Senior Specialist for International Cooperation, MEXT)
 Cecil Masoko (Minister Counsellor for Science and Technology, South African Embassy)
 14:45-14:55 Video Projection
 15:00-15:10 Lesson Study Consultation
 Moderator: Masafumi Nagao (Visiting Professor, ICU)
 Presenters: Yuko Miyagawa (Teacher, Osawadai Primary S.J.)
 Claudette De Angelo (Teacher, Levana Primary S.J.)
 Comments: Junichi Ishikawa (Teacher, Dai-Nana Middle S.J.)
 Hiroyo Matsukawa (Teacher, Haneawa Primary S.J.)
 Oshihito Uehra (Teacher, Haneawa Primary S.J.)
 15:55-16:55 Panel Discussion: "Significance and Challenges of International Collaboration for ESD Module Development"
 Moderator: Kazuo Kitahara (Professor, ICU)
 Panelists: Andrew Petersen (Researcher, Univ. of Cape Town)
 Atsumi Iwai (Senior Specialist for International Cooperation, MEXT)
 Shigeru Kainose (Superintendent, Mitaka Municipal Board of Education)
 Shoji Kawabata (Principal, Osawadai Primary School)
 Yutaka Sato (Professor, ICU)
 Sumiko Kano (Principal, Osawa Gakuen)
 16:55-17:00 謝辞



▶ サイエンスニュース12月号 http://science-news.netj.or.jp/vol/2009_12/event.html#2

成果

1. 小学校高学年対象のESDの国際共同開発の可能性を実践、実証したこと。
2. 日本のチームティーチング、授業研究の方法が南アの教育に受容されたこと。
3. さらに中等教育への継続の可能性が拓けてきたこと。
4. 地域(三鷹市教育委員会、おおさわ学園、住民)と大学との教育連携の絆ができたこと。

予定成果物

1. 小学校高学年対象のESDモジュール
 1. プロジェクト紹介ビデオ
 1. 事業報告書

